

Straits Times (シンガポール)

2022年7月8日

G-20 members make strong call for 'immediate' end to Ukraine war

G-20 参加国首脳はウクライナ即時停戦を強く呼びかける

<https://www.straitstimes.com/asia/se-asia/g-20-members-make-strong-call-for-immediate-end-of-ukraine-war>

Linda Yulisman
Indonesia Correspondent

ウクライナ戦争とその世界経済への影響は、バリ島で開催された G20 外相会合に重くのしかかっていた。ほとんどのメンバーが戦争の終結を強く求めた。

インドネシア外相の発言

開幕会議で、インドネシアのレトノ・マルスディ外務大臣は、次のように述べた。

参加者がこの会議を利用して、壁を取り払い橋を架け、不信感を払拭し相互の信頼を強め、協力し、全員が解決の一端を担うよう願っている。

9日の閉幕会議ではこう述べた。

新型コロナの大流行、それに続くウクライナ戦争は、世界にとって「大きな試練」であった。

多くの参加者が、戦争の即時終結と、外交と交渉による紛争の平和的解決を強く求めた。

我々は「率直で建設的な議論」を行えたものと信じている。

続いて外相はこう述べた。

すべての参加者が食糧およびエネルギー価格の高騰を懸念している。それによって最も影響を受けるのは発展途上国である。世界のフードサプライチェーンの混乱に対処することが急務である。それにはウクライナとロシアからの食糧と肥料を世界市場に再統合することが重要だ。

パリでの2日間の最大のイベントは、ロシアのラブロフ外相とその最も厳しい批判者たちとの直接会談だった。それはウクライナ戦争が始まって以来、初めての直接会談となった。

7カ国(G7)の閣僚はラブロフ氏が出席した木曜日の歓迎夕食会を欠席した。これにより、金曜日の会合に先立ち緊張が高まっていた。

インドネシアのレトノ外相はこれを冷静に受け止めた。欠席の件は前もって伝えられており、彼らのスタンスは理解できると述べた。

金曜日の朝、ラブロフ氏とレトノ氏の会談が始まる前に、二人が握手しているとき、その場にいた西側の記者たちは「いつ戦争をやめるんだ」「なぜ戦争をやめないんだ」と叫び立てた。

ラブロフ氏は、ウクライナのクルエバ外相のオンライン演説中に退席した。ドイツのバーボック外相がウクライナ戦争をめぐってモスクワを批判したときも同じである。

インドネシアはG20の現議長の権限により、いくつかの非加盟国の中から、ウクライナを会議に招待していた。

ラブロフ外相の発言

ラブロフ氏は金曜日、記者団に対し 以下のように語った。

西側諸国が議場に立つと、彼らはすぐに、ウクライナ情勢に関連したロシア連邦への批判に熱中し、話を外らせてしまう。

「攻撃者、侵略者、占領者...」、今日はいろいろな言葉を聞かせてもらった。予想されたことではあったが、このようなやりとりは、まったく非生産的だった。

ついで彼は穀物輸出問題について言及した。この発言は、過去数週間トルコ+国連と、穀物輸出回廊について協議してきたが、進展がなかったことを受けての発言である。

ロシアはウクライナの港でブロックされている穀物について、輸出回廊を確保すべくトルコとウクライナと交渉する用意がある。

ラブロフ氏は金曜日、インドネシアのレトノ外相と会談した。そのほか、アルゼンチン、ブラジル、インドの担当者とも会談した。木曜日には中国の王毅外相、トルコのカヴソグル外相と会談した。

ロシアのタス通信によると、ラブロフ氏はこれらの会談の席上、世界の食糧危機とエネルギー危機は西側の政策のせいだと非難した。

また世界的な食糧危機とエネルギー危機は、「後先を考えない冒険主義的な突撃の結果であり、間違っている」と述べた。(COP26のことか?)

その中には、いわゆるGXなど、市場原理に対する西側の過剰な干渉が含まれているという。

* GX：グリーン・トランスフォーメーション。企業活動の脱炭素への転換。